

D部門論文委員会意見交換会

2016年9月1日(木)

12時10分～13時10分

群馬大学 荒牧キャンパス 教C201

(会期中:第1会場)

1 議事次第

- 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

村上和文誌編修長

大石英文誌編修長

- 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

- 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

- 電子査読システムの運用状況について

鈴木和文誌編修長補佐

- 査読マニュアルについて

村上和文誌編修長

- 昨年の意見交換会での意見に対する報告

- 論文委員意見に対する回答

村上和文誌編修長

大石英文誌編修長

森實俊充D1主査

- フリーディスカッション (13:10終了)

論文委員会の体制紹介・ 和文論文誌編修長・英文論文誌編修長 あいさつ

産業応用部門 和文論文誌 編修長

村上 俊之 (慶應義塾大学)

英文論文誌 編修長

大石 潔 (長岡技術科学大学)

★ねらい

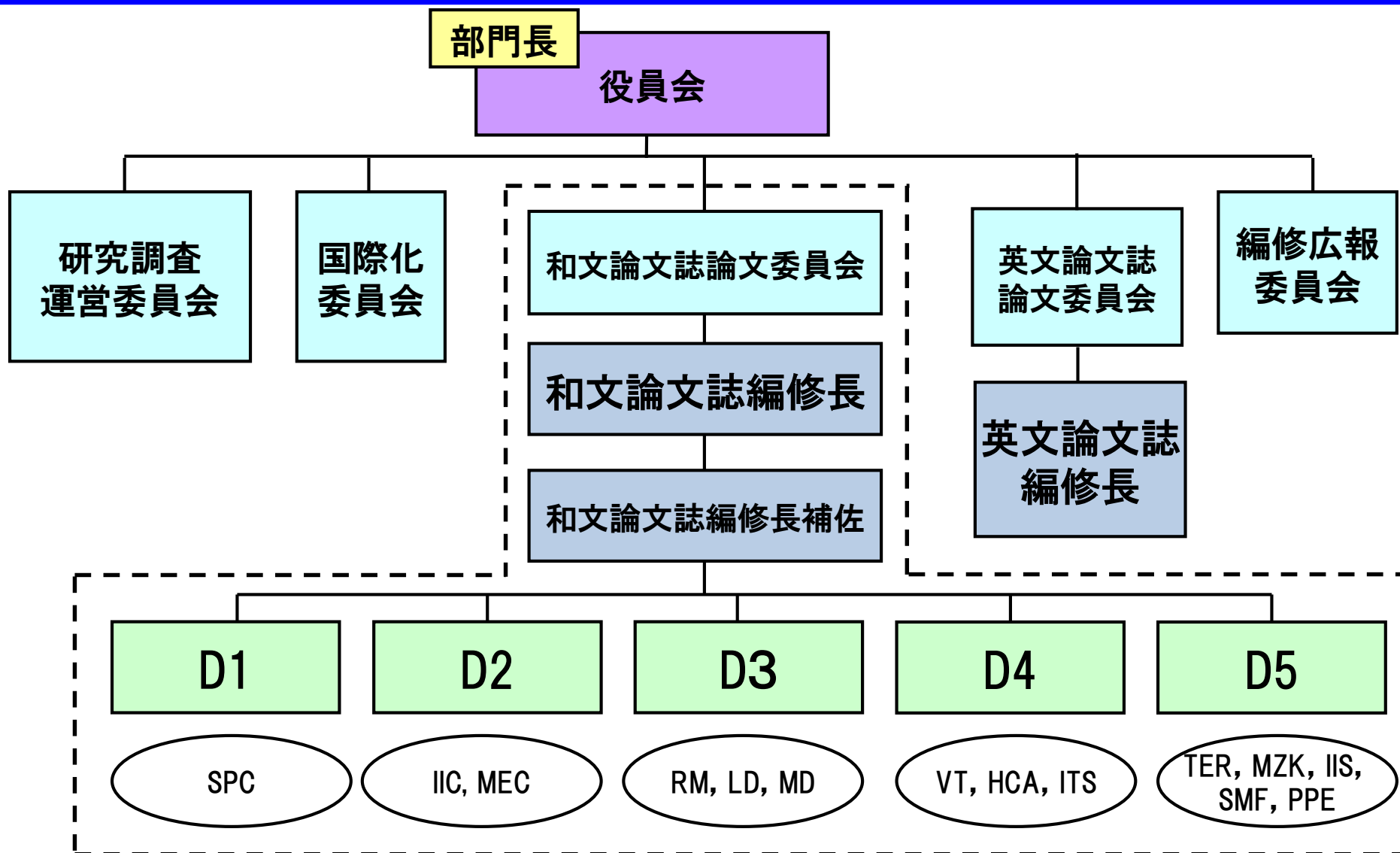
- ・ 論文投稿数の増加
- ・ 部門大会の活性化

「平成28年産業応用部門大会(JIASC2016)」の提案と実施
(平成29年2月～4月号)

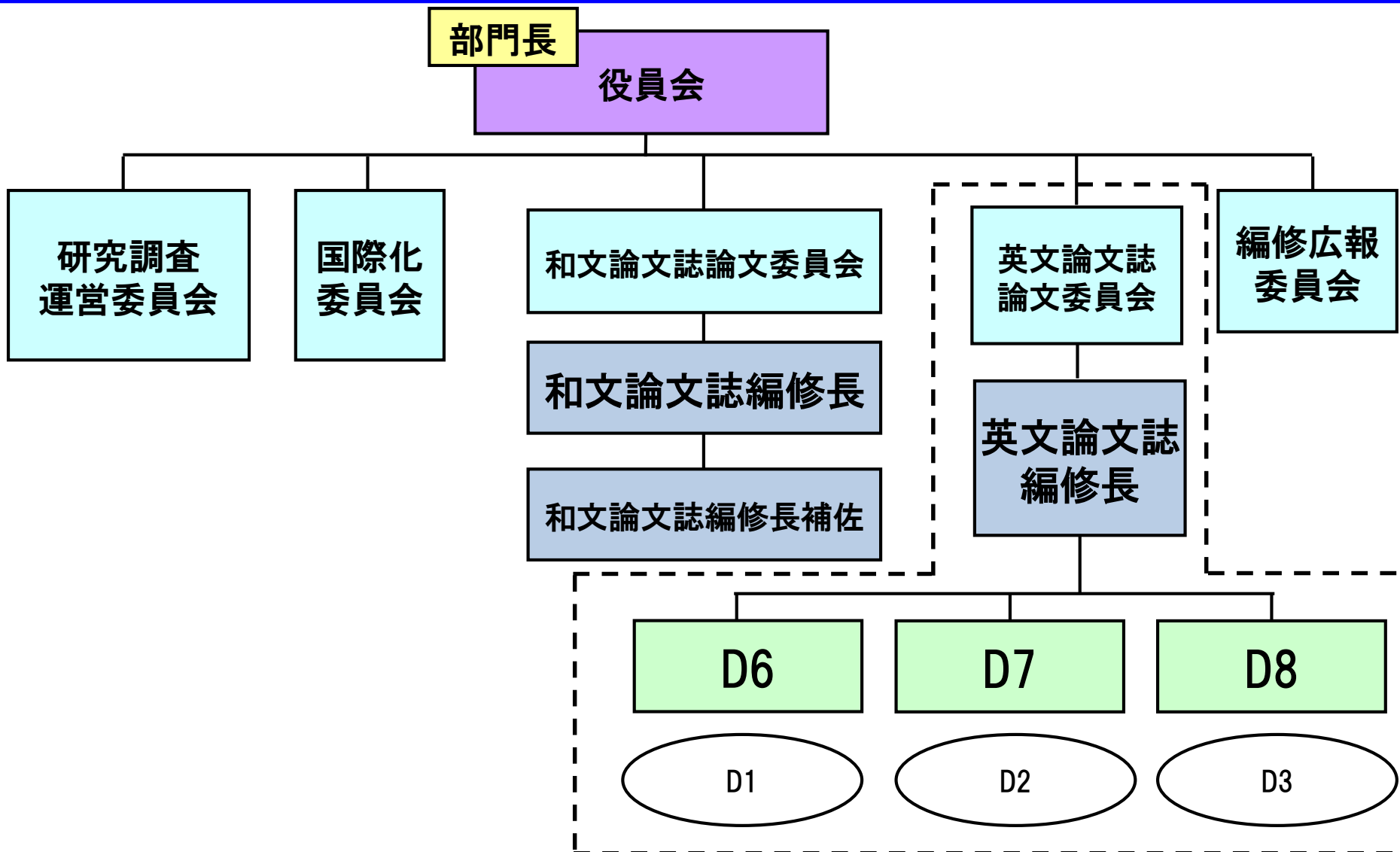
- ・ **6ページ**部門大会論文のみ投稿可能(6月末日)
- ・ 部門大会プログラムにおける6ページ論文の明示
 - ⇒大会期間中にディスカッション可能
 - ⇒従来通り大会終了後一般論文として投稿可能

お詫び: 募集案内におきまして、特集号への投稿条件(6ページ論文のみ可, 発表必須)の明記が不十分でした。
深くお詫び申し上げます。

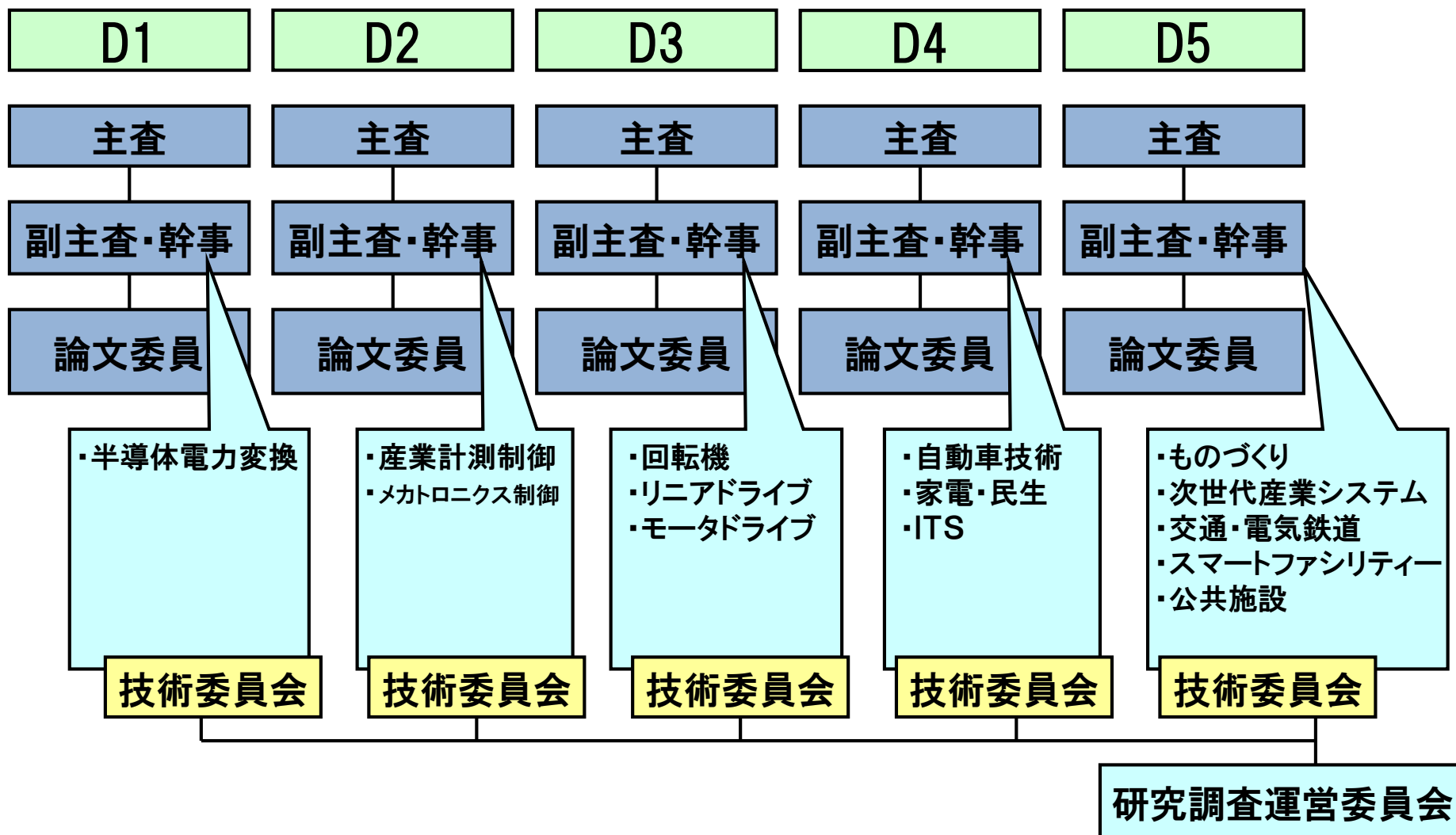
4 D部門における論文委員会(和文論文誌)



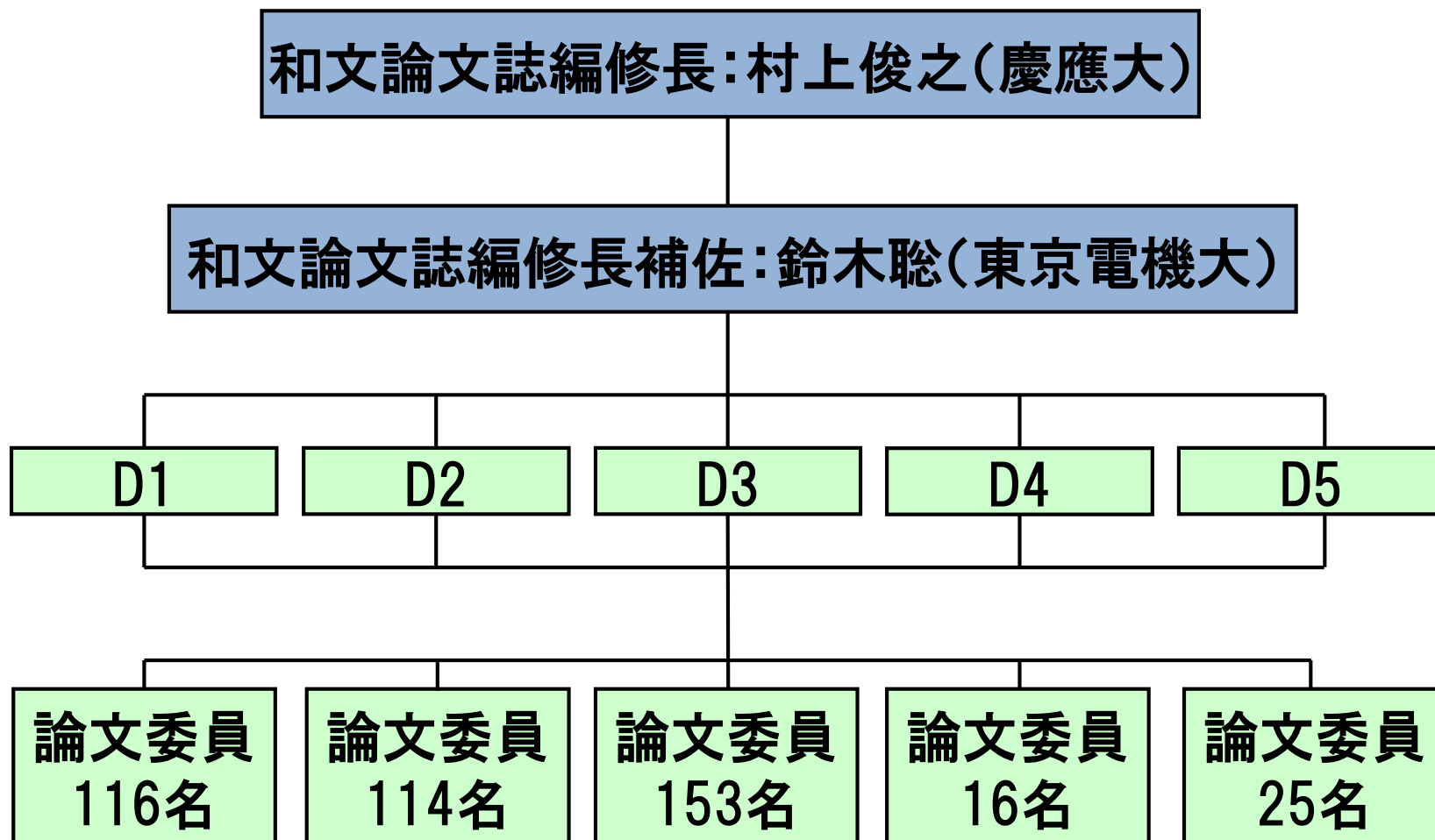
D部門における論文委員会(英文論文誌)



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



2016年度和文論文誌 論文委員会委員

D1	役職	氏名	所属
	主 査	森實 俊充	大阪工業大学
	副主査	星 伸一	東京理科大学
	幹 事	伊東 淳一	長岡技術科学大学
	〃	前川 佐理	(株)東芝
	〃	和田 圭二	首都大学東京

D3	役職	氏名	所属
	主 査	森下 明平	工学院大学
	副主査	山本 吉朗	鹿児島大学
	幹 事	赤津 観	芝浦工業大学
	〃	榎本 裕治	(株)日立製作所
	〃	坂本 泰明	(公財)鉄道総合技術研究所
	〃	山本 修	職業能力開発総合大学校
	〃	山本 康弘	(株)明電舎
	新幹事	鈴木 憲吏	東京都市大学

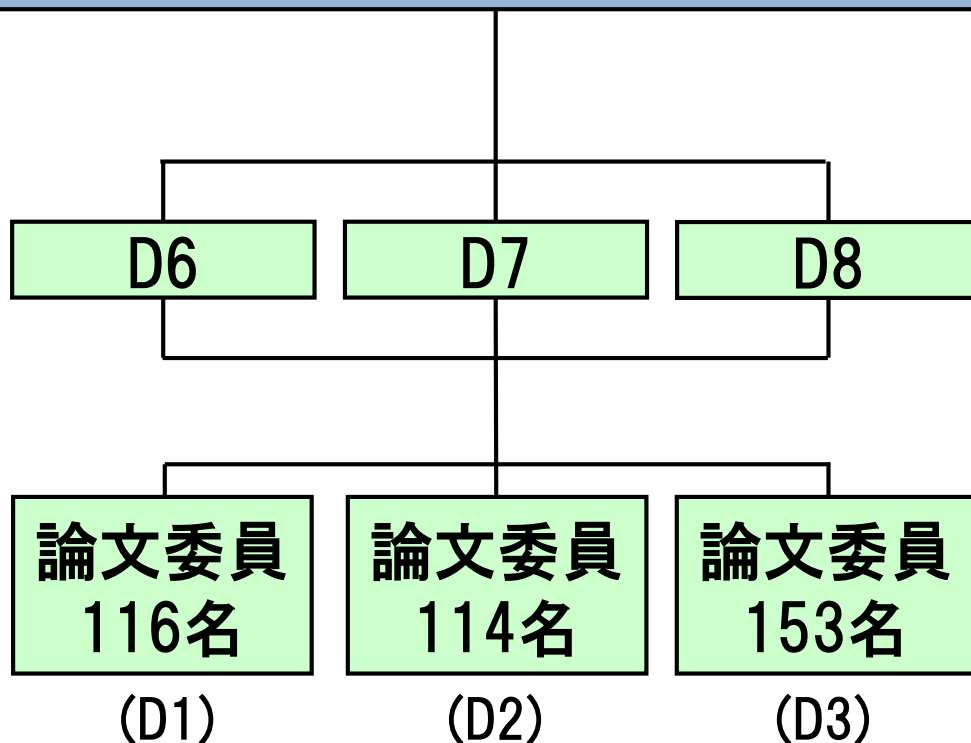
D2	役職	氏名	所属
	主 査	満倉 靖恵	慶応義塾大学
	副主査	内村 裕	芝浦工業大学
	幹 事	藤本 博志	東京大学
	〃	熱海 武憲	千葉工業大学
	新幹事	五十嵐 洋	東京電機大学

D4	役職	氏名	所属
	主 査	宮武 昌史	上智大学
	副主査	市川 紀充	工学院大学
	幹 事	真田 雅之	大阪府立大学
	〃	高橋 聡	名古屋電機工業(株)
	新幹事	加藤 崇	日産自動車(株)

D5	役職	氏名	所属
	主 査	宮武 昌史	上智大学
	副主査	市川 紀充	工学院大学
	幹 事	宇佐見 照夫	京都学園大学
	〃	古関 隆章	東京大学
	〃	鈴木 健嗣	筑波大学
	〃	山中 理	(株)東芝

英文論文誌論文委員会の構成

英文論文誌編修長: 大石 潔 (長岡技術科学大学)



英文論文誌編修長 大石 潔(長岡技術科学大学)

Power Electronics and Its Applications

D6	役職	氏名	所属
	主 査	藤田 英明	東京工業大学
	副主査	横山 智紀	東京電機大学
	幹 事	芳賀 仁	長岡技術科学大学
	〃	星 伸一	東京理科大学

Electric Machine, Motor Drive and their Applications

D8	役職	氏名	所属
	主 査	小坂 卓	名古屋工業大学
	副主査	久保田 寿夫	明治大学
	幹 事	近藤 圭一郎	千葉大学
	〃	真田 雅之	大阪府立大学
	〃	鳥羽 章夫	富士電機

Motion Control, Robotics, Sensing and their Applications

D7	役職	氏名	所属
	主 査	藤本 康孝	横浜国立大学
	副主査	柴田 昌明	成蹊大学
	幹 事	石川 潤	東京電機大学
	〃	残間 忠直	千葉大学
	〃	藤本 博志	東京大学

本日の出席予定者数

	委員数	出席者	欠席者	未定
D1	116	17	23	76
D2	114	19	29	66
D3	153	25(3)	45	83
D4	16	7(6)	1	8
D5	25	4(3)	7	14
D6	4	2(1)	0	2
D7	5	1	0	4
D8	5	4(4)	0	1
編修広報委員	35	7(4)	9	19
合計	473(重複含)	86(重複:21)	114	273

出席者総数: **65名** ('15年:95名, '14年:68名, '13年:70名)

和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・ 掲載状況について

D部門 論文投稿・掲載件数の推移

平成27年

投稿**199**(うち英文論文誌D 64)

掲載243(うち英文論文誌D 95)

平成26年

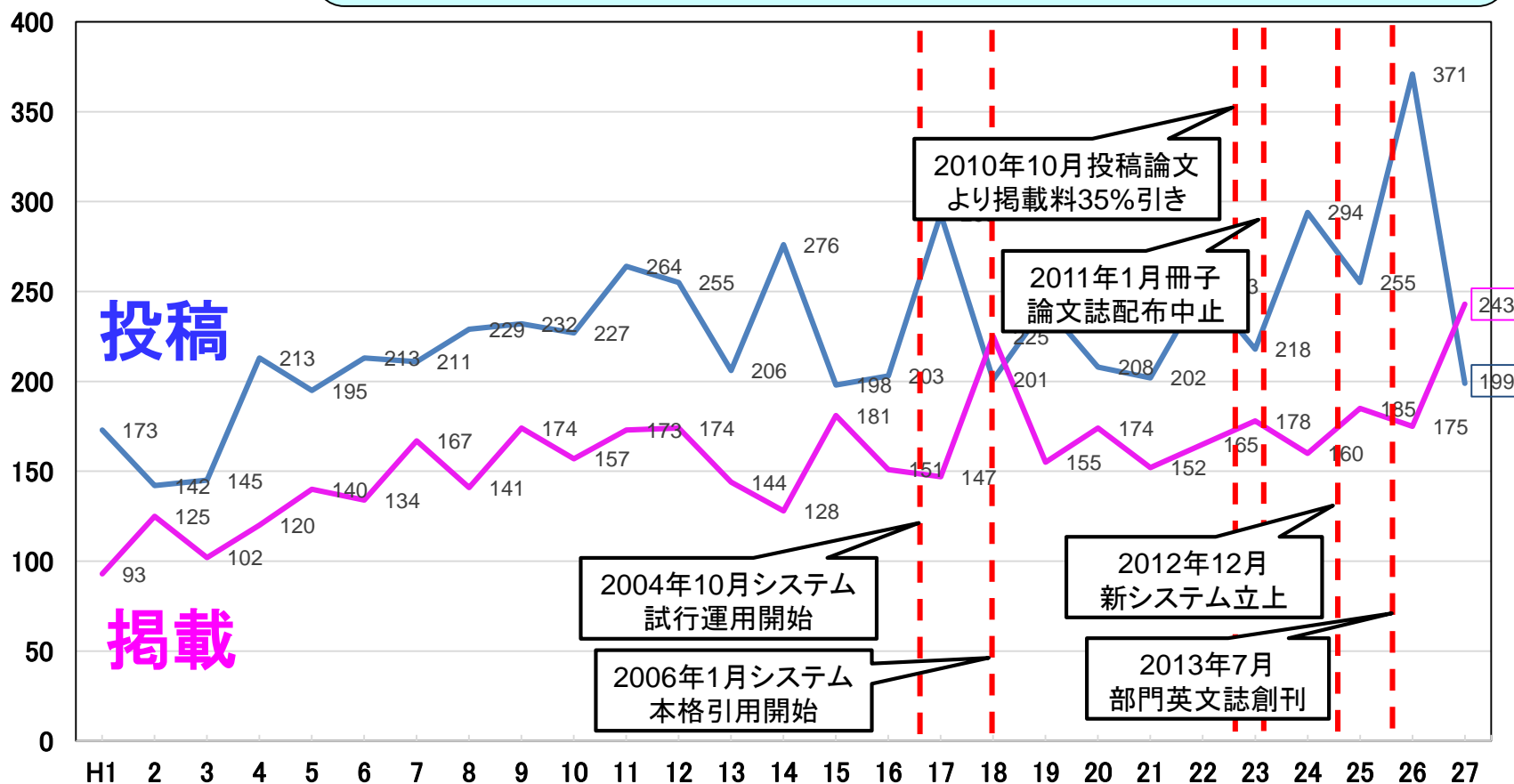
投稿371(うち英文論文誌D 158)

掲載175(うち英文論文誌D 57)

論文
件数

投稿

掲載



年

特集号の企画数

年	企画数	投稿数
平成28年	3	?
平成27年	3	199
平成26年	9	371
平成25年	6	255
平成24年	5	294
平成23年	5	218
平成22年	5	253
平成21年	2	202

- 平成24年7月から発刊(隔月)
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded (TM)(SCI)”に取得を目標

2014年 1月	「Motion Control and its Related Technologies」
2014年 3月	「Motor Drive and its Related Technologies」
2014年 7月	「Power Electronics」
2014年 11月	「Technologies of Rotating Machinery」
2015年 1月	「Motion Control and its Related Technologies」
2015年5,7月	「IPEC-Hiroshima」
2016年 3月	「Motion Control and its Related Technologies」
2017年 1月	「Motor Drive and its Related Technologies」
2017年5月	「JIASC特集号」
2017年 3月	「Motion Control and its Related Technologies」

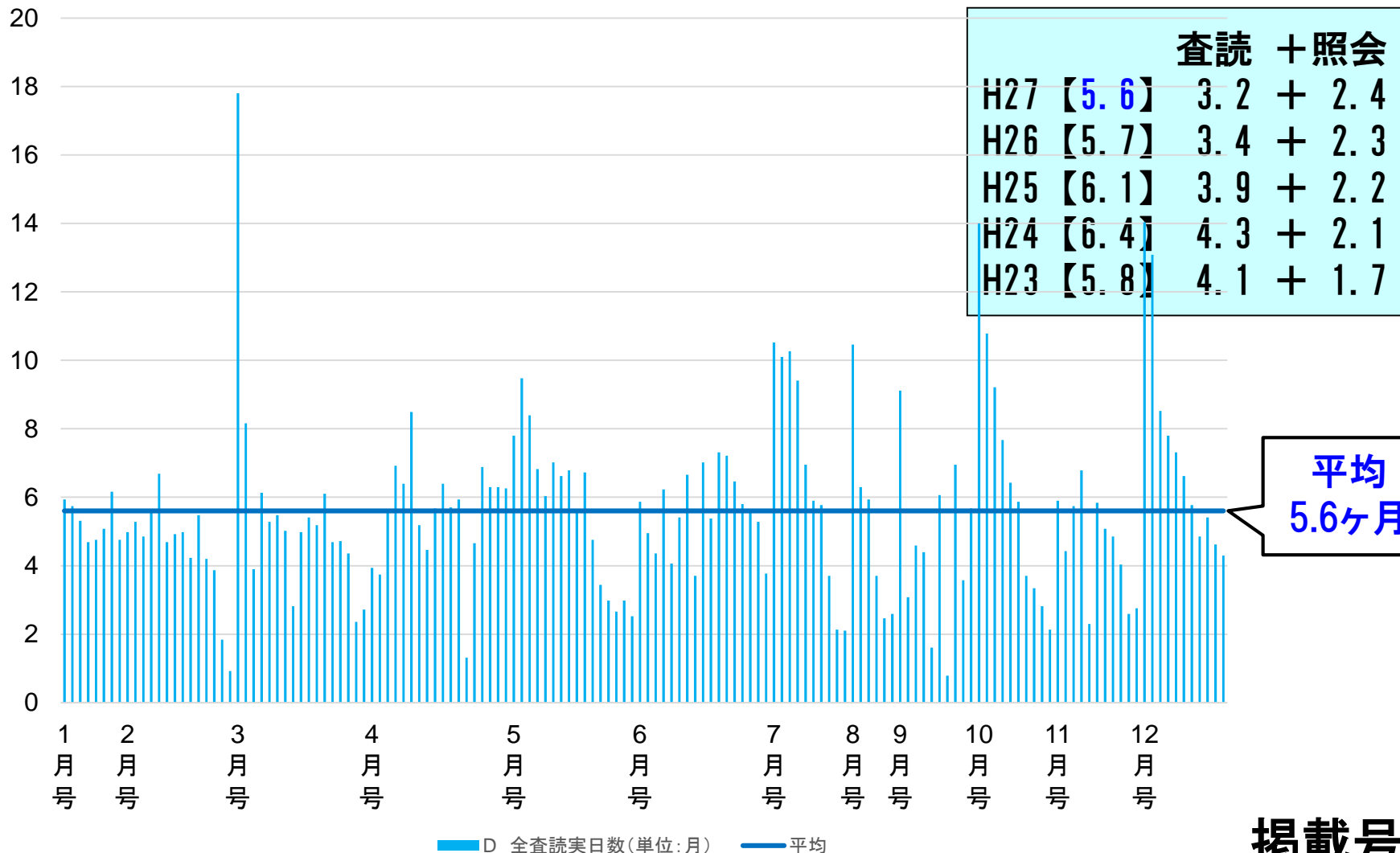
参考: 共通英文誌

H26年 H27年

D部門関連の一般論文投稿が63件→36件

和文論文誌D(論文) 論文掲載までの所要月数

査読期間
[月]

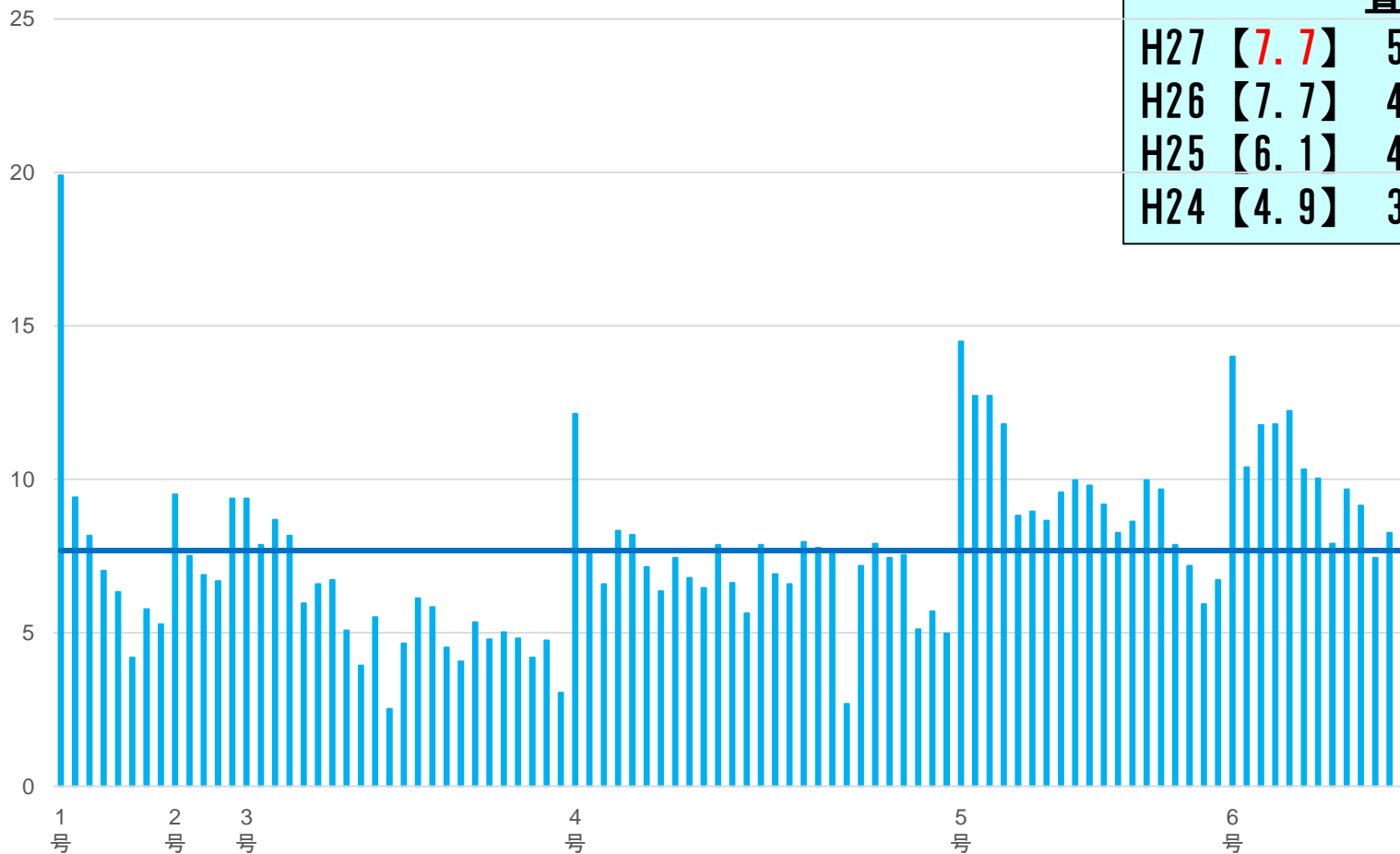


掲載号

(2015年/H27)

英文論文誌D(論文) 論文掲載までの所要月数

査読期間



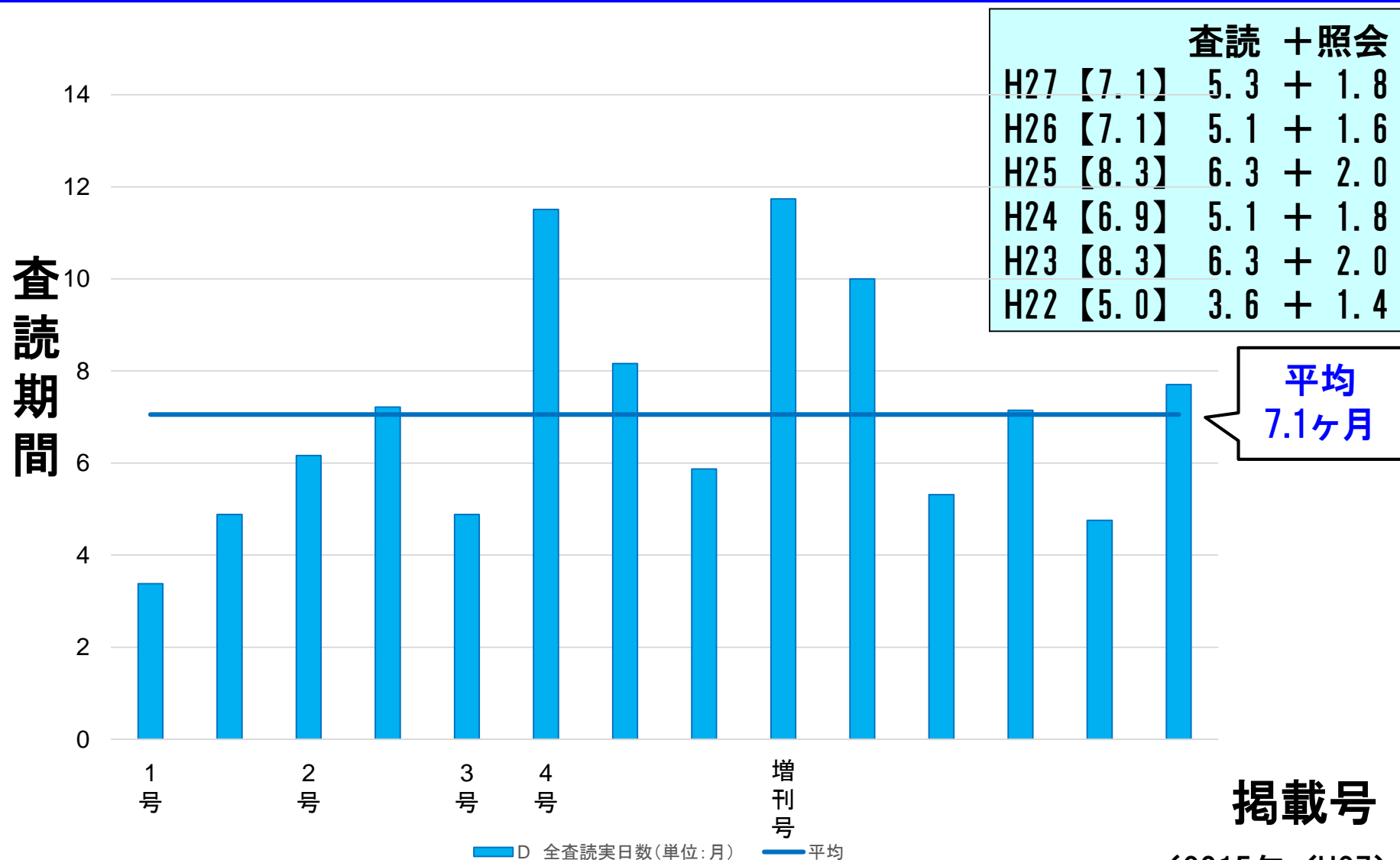
		査読	+	照会
H27	【7.7】	5.1	+	2.6
H26	【7.7】	4.9	+	2.8
H25	【6.1】	4.0	+	2.1
H24	【4.9】	3.3	+	1.6

平均
7.7ヶ月

掲載号

(2015年／H27)

共通英文論文誌(D部門投稿論文) 論文掲載までの所要月数



(2015年/H27)

19 電子査読システムの運用状況について

編修長補佐 鈴木聡
(東京電機大)

20 電子投稿・査読システム運用状況

- 上期相当(1～7月)分の投稿論文数の推移※
 - 平成25年:130件
 - 平成26年:149件
 - 平成27年: 76件
 - 平成28年:130件
- 昨年の論文投稿数は激減傾向となったが、本年は回復傾向にある。
- 和文論文誌への投稿・特集号企画を、引き続き積極的にご検討願いたい。

産業応用部門 和文論文誌 編修長
村上 俊之（慶應義塾大学）

- 目的

- 論文査読の基準を明確にすること。
- 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。

- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

24 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載(照会后掲載)(B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

26 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

27 1回目の査読でA判定をつける場合の 判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後、最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ
<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>からリンクできます。

和文誌編修長 村上 俊之
(慶應義塾大学)

英文誌編修長 大石 潔
(長岡技術科学大学)

D1主査 森實 俊充
(慶應義塾大学)

- 査読について: 3件
- 投稿料について: 1件

合計4件, ご意見・ご質問を頂戴しました。
ありがとうございました。

H27:10件, H26:11件, H25年:12件, H24年:11件, H23年:3件

Q:IEEEに比べ、査読期間が長期化することへの改善はできない
でしょうか？

A. 和文論文誌につきましては、H24年度から微小ではありますが論文掲載までの**所要月数は短縮**しており、引続き改善に尽力いたします。

英文論文誌につきましては、横ばい状態で査読期間短縮に向けて引き続き尽力いたします。

Q: 一回目のC判定箇所と違う点について指摘した2回目B判定が返ってきました。まだ査読のルールを理解していない査読者・幹事さんがいるようです。何らかの方法で徹底したいのですが
...

A. 本件に該当する査読フローを、**査読マニュアルに追記・明文化**しました※ので、論文委員会内で周知徹底いたします。また、必要に応じまして幹事から査読者に本マニュアルを参照の上、査読業務を遂行していただけるよう、周知致します。

※【産業応用部門論文誌査読マニュアル:4章6条の抜粋】

再査読、追加査読では第1回もしくは第2回査読における照会事項に対して、論文修正および回答が適切に行われているかを確認することで判定を行う。また、原則として再査読、追加査読時に初期査読で指摘の無かった新たな照会を行わない。

Q: 修正論文を提出する際には、変更した箇所は赤字にすることをルールとして明文化していただけないでしょうか。多くの著者は赤字にしてくれていますが、そうでない場合も時折見かけます。査読者の負担軽減と査読のスピードアップに寄与すると思いますので、ご検討をお願いいたします。

A. 投稿規程([3], 3, (3))ならびに査読マニュアル付属の「参考資料2」に論文修正指針に関する記述(“修正箇所をマーカや赤枠で明記する”)を修正・追記する予定です。

また, IEEJ Paper Managementシステムにおける査読結果照会文の編集画面等に, その旨を著者に指示(修正論文PDFにハイライトか赤枠強調)を促すヘッダ文を自動挿入するなどの対応策を検討いたします

※【追記修正内容】また、再提出される修正論文では変更が判別しやすいように修正箇所を朱書きあるいはハイライトし、各照会事項に対する回答文に修正内容と修正箇所を明記する。

Q: 投稿料を、より安価に設定(現在の半額程度に)するべく何か方策はないでしょうか。(最近のOA雑誌等の安さに対して、電気学会の1本およそ10万円の投稿料に二の足を踏む例が身近にございました。)

A. 電気学会論文誌の掲載料も、2010年10月1日以降投稿論文より約3.5割安価になりました。更なる減額につきましては、円滑な出版業務を維持するための諸経費を確保するため、現状では難しい状況です。

ご参考(現在の掲載料):

6ページまで: $10,800 \times 6 = 64,800$

7ページ以降: $64,800 + 21,600 \times \text{追加ページ数}$

OA論文は安価な反面、学術アーカイブとしての信頼性を問題視する意見もありますので、論文公開の在り方の情勢変化に注意しつつ、継続的に検討いたします

Q:IEEEに倣って他の査読者の結果が返送時点で見えるようにできないか？

A. 査読者より問い合わせがあった場合、**幹事レベルで個別に他の査読者情報を送付**できるように審議中です(他部門との調整).

昨年度の宿題について

Q: 査読者がなかなか決まらないために時間が要していることを著者に見える化できないか？

A. システムの変更を要するため、直ぐの対応は難しいですが、**幹事レベルでの保留状態は基本的に査読者の選定中**との解釈をお願いしたい。

Q:B判定の取り扱いをより明確にできないか？

A. 査読マニュアルに次の追記を行う予定です.

「4. 判定の基準」の4項目の最後に次を追記
また、B判定の際に行う修正要項は、suggested であり、
回答書等での適切な説明を行った上で、仮に論文中に
修正が行われていない場合でも掲載可とし得る。

終了時間:13:10

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました